

ま ち の 話 題

豊岡

但馬高校アートフェスティバル

大きく育て 若いアートの芽

11月3日、但馬高校アートフェスティバルを豊岡市民プラザで開催し、豊岡高等学校や日高等学校などが参加しました。交流サロンには書道や絵画の力作が並び、ほっとステージでは音楽や演劇を披露。日高等学校吹奏楽部の「はばタンカーニバル」の演奏時には、「はばタン」が客席を回りました。また、同校演劇部、東日本大震災復興支援事業「いわき総合高校豊岡公演」のスタッフ・高校生アートディレクターズがそれぞれ演劇を上演すると、会場は笑い声に包まれました。司会の甲野彩絵さん(豊岡総合高校2年)が「今後も高校生が力を合わせ開催できるように、輪を広げていきたいです」と結びました。



▲アートディレクターズは、高校の部活動予算会議の様子を描いた「七人の部長」を熟演

城崎

平家落人伝説をあるく

平家落人伝説に

まつわる宝篋印塔を訪ねて…

10月17日、城崎地域内の平家落人伝説にまつわる宝篋印塔などを巡るイベント(豊岡市歴史文化遺産活用活性化事業実行委員会主催)が行われ、市内外から20人が参加しました。城崎総合支所を出発した参加者は、桃島や弁天山、極楽寺、温泉寺などの宝篋印塔を順次見学。それぞれの形の違いや、塔に使われた石、刻まれた文字・図柄により作られた年代や地域が分かることなどを学びました。前泊で参加した三浦佳代子さん(相生市)は「弁天山の塔が越中次郎兵衛盛嗣(平盛嗣)の供養塔と伝えられていることなどが分かり、勉強になった」と笑顔で話していました。



▲国指定重要文化財である温泉寺の宝篋印塔(供養塔などに使われる仏塔の一種)の解説を聞く参加者ら

竹野

三原谷の川の風まつり

自然→食→そしてアート

10月27日と28日の2日間、旧大森小学校(竹野町桑野本)で、自然と食とアートをテーマに三原谷の川の風まつり(同実行委員会主催)が開催されました。同実行委員会会長の小山一さんは「毎年、近隣の区が協力して、地域の活性化のために開催しています」と話していました。会場では、料理人の指導を受けて作る三原谷御膳を提供する「学校レストラン」や「学校ギャラリ」、「ふれあい市場」などが開設されました。島根県大田市の土江子ども神楽団の公演もあり、子どもたちが頑張る姿に来場者からは惜しみない拍手が贈られていました。



▲演目「大蛇」を披露する土江子ども神楽団の子どもたち

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報・交流係まで連絡ください。



▲走行する列車を、大人も童心に帰って見入る。走行中に脱線することも…

日高

Nゲージ鉄道模型フェスティバルin但馬

子どもの目の輝きに負けじと

大人もついつい熱中!!

10月27日と28日の2日間、JR江原駅前のサンロード特設会場で、Nゲージ鉄道模型フェスティバルが開催されました。

江原駅周辺の地域活性化を目的としたこのイベントでは、かつての江原駅前周辺のまち並みが、写真などの資料を基に情景模型で再現され、来場者の目を引いていました。

子どもらは、持参した「車両」を走行させたり、運転操作を体験して楽しみました。

実行委員長の石澤雄一郎さんは「Nゲージ関連のイベントは、多くの来場者に大いに楽しんでほしい」と力強く語っていました。

出石

鳥居やすらぎ市民農園 秋の収穫祭
地域の元気を発信!
台風23号の復興に感謝を込めて

10月21日、鳥居やすらぎ農園交流広場で、第6回秋の収穫祭が開催され、多くの家族連れらでにぎわいました。

同農園は、貸し農園として整備されましたが、平成16年10月、台風23号の影響で、1メートル以上浸水。この祭りは、その復興に協力してくれた方々に感謝するとともに、復興した区民の元気の発信や収穫への感謝などを込めて、平成19年から毎年開催されています。参加者は、バンド演奏や餅つき、収穫体験などを楽しみながら、地元で収穫されたお米やゴボウ、サトイモなどを使った炊き込みご飯などをおいしそうにほおばっていました。



▲サツマイモ掘り体験。「土」の中から出てくる大きなサツマイモに、子どもたちはビックリ

但東

赤花そばまつり

今年のそばは最高の出来!

皆さん食べに来て!!

11月3日、赤花そばの郷(但東町赤花)で、赤花そばまつりが開催されました。

前日までの雨は上がり、時折晴れ間ものぞく中、収穫したての新そばを味わおうと、大勢の来場者でにぎわいました。

広場では、よさこい踊りやビンゴゲーム、景品付き餅まきなどが行われました。また、同郷にはオーナー制度があり、神戸市から訪れたオーナーが、自分で育てたソバを収穫してそば打ち体験をし、味わっていました。

同郷生産組合長の本田重美さんは、「今年は収穫量も多く最高の出来。皆さんに味わってもらいたい」と笑顔で話していました。



▲新そばの香りに包まれながら、淡い青緑色に輝く十割そばに舌鼓を打つ来場者ら